

## 岡山市市民協働推進ニーズ調査事業実施報告書

※各項目はできるだけ簡潔かつ具体的に記載してください。

※枠の幅は自由に変更してください。なお、全体で A4 サイズ 4 ページ以内に収まるように作成してください。

実施主体	団体名	介護者ほっとステーション「すまいる」
	担当者氏名 連絡先	本村 昌文  住所 〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1 岡山大学大学院社会文化科学研究科 本村研究室内 電話 086-251-7395 Eメール tomtom@okayama-u.ac.jp
	合同提案団体 (あれば)	岡山大学大学院社会文化科学研究科・本村研究室、 岡山大学地域総合研究センター
岡山市の協働課等	課名等 担当者氏名 (連絡先)	課名等 女性が輝くまちづくり推進課  担当者 課長代理 石原 加恵 ( 086-803-1115 )
調査事業	名 称	子育て世代が抱えるワークライフバランス及び大学生の多様なライフプラン形成に向けた課題・ニーズ調査プロジェクト
	調査の目的・仮説	<p>1. 事業提案の背景</p> <p>育児や介護は、それに従事する人の仕事や生活に変化を余儀なくさせる。現代社会においては、ライフステージにおける変化を支える人間的なつながりが希薄化し、育児・介護によって孤立する人が多く存在する。育児・介護による孤立防止の試みもなされているが、参加するための時間を確保することが難しいのが現状である。さらに、育児・介護は個別性が高いにもかかわらず、必要となる多様な情報へのアクセス環境が整備されていない。</p> <p>育児・介護の未経験者は経験者からの情報を得たいというニーズがある。また、育児・介護に従事している人は苦労や負担を共有することによって現実の負担が軽減されると感じるとともに、次世代に役立つように体験を発信したいという意識がある。</p> <p>一方で、大学生は卒業後の就職をひかえ、ライフステージの中で結婚・育児等の生活の変化を経験することになるが、核家族化や親戚付き合いの希薄化などにより、これらの変化を感じる機会が少ない。</p> <p>2. 仮説</p> <p>家族留学により子育て家庭に大学生が訪問し体験をすることで、家庭・大学生双方に好影響があることが期待される。</p>

調査事業		<p>子育て家庭：大学生が家庭の子どもと関わることや、大学生からキャリア・仕事・暮らしなどについて素朴で本質的な質問を受けることで、あらためて自分らしい生き方、人生観、仕事に対する気持ちなどを確認することとなり、自分自身のライフプランについて改めて考えるきっかけになることが期待される。</p> <p>大学生：育児家庭での実体験を通して、自分の将来キャリアについて考え、将来の育児、働き方・キャリアプランに対する新たな視点を得て、より自分らしく生き仕事をするビジョンを持つことができるようになる効果が期待できる。</p>																								
	調査の対象 数量	<p>子育て家庭へのアンケート 46名</p> <p>大学生へのアンケート 173名</p>																								
	調査の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述式アンケート調査</li> <li>・シンポジウムにおけるディスカッションでの聞き取り</li> <li>・授業(岡山大学文学部専門科目「専門知と職業」)におけるワークシート</li> </ul>																								
	調査の工程	<table border="1"> <thead> <tr> <th>月日</th> <th>工程</th> <th>担当</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6・23</td> <td>説明会、調査内容に関する打ち合わせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7・12</td> <td>調査内容、調査方法に関する打ち合わせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7・23</td> <td>「家族留学」説明会、来場者へのアンケート調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10・5</td> <td>文学部での授業(「専門知と職業」、家族留学を活用した授業)でのアンケート調査等の打ち合わせ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10・6</td> <td>文学部での授業(専門知と職業)スタート(11月17日まで)、アンケートの実施、ワークシートの記入 <small>チラシ 500部 ポスター 100部</small></td> <td>本村、山川、流尾</td> </tr> <tr> <td>12・10</td> <td>シンポジウム(「ケアを考えるー多様な子育ての現場から」)の実施、アンケート調査</td> <td></td> </tr> <tr> <td>1月～2月</td> <td>アンケート調査の集計、ワークシートの集計、分析</td> <td>株式会社エデュフロントへ委託</td> </tr> </tbody> </table>	月日	工程	担当	6・23	説明会、調査内容に関する打ち合わせ		7・12	調査内容、調査方法に関する打ち合わせ		7・23	「家族留学」説明会、来場者へのアンケート調査		10・5	文学部での授業(「専門知と職業」、家族留学を活用した授業)でのアンケート調査等の打ち合わせ		10・6	文学部での授業(専門知と職業)スタート(11月17日まで)、アンケートの実施、ワークシートの記入 <small>チラシ 500部 ポスター 100部</small>	本村、山川、流尾	12・10	シンポジウム(「ケアを考えるー多様な子育ての現場から」)の実施、アンケート調査		1月～2月	アンケート調査の集計、ワークシートの集計、分析	株式会社エデュフロントへ委託
	月日	工程	担当																							
6・23	説明会、調査内容に関する打ち合わせ																									
7・12	調査内容、調査方法に関する打ち合わせ																									
7・23	「家族留学」説明会、来場者へのアンケート調査																									
10・5	文学部での授業(「専門知と職業」、家族留学を活用した授業)でのアンケート調査等の打ち合わせ																									
10・6	文学部での授業(専門知と職業)スタート(11月17日まで)、アンケートの実施、ワークシートの記入 <small>チラシ 500部 ポスター 100部</small>	本村、山川、流尾																								
12・10	シンポジウム(「ケアを考えるー多様な子育ての現場から」)の実施、アンケート調査																									
1月～2月	アンケート調査の集計、ワークシートの集計、分析	株式会社エデュフロントへ委託																								
調査結果概要	<p>本ニーズ調査事業では、子育て世代と大学生の抱く仕事と子育てや介護などの両立についての意識や実態の調査を行った。調査ではなるべくリアルな声を聴くことを目指し、アンケート調査とともに、「家族留学」を活用した</p>																									

(詳細結果については添付してください)

聞き取りも実施した。

本ニーズ調査事業を協働した働く介護者ほっとステーション「すまいる」は、その名称が示す通り、「介護者」に焦点をあて、「介護者」(主に家族をはじめとした無償の介護者)のサポートを主なミッションとしており、直接子育て家庭に関連する事業を展開しているわけではない。しかし、本事業に参加したのは、いつ、誰もが突然「介護者」となる可能性があり、そのとき、多くの人はとまどい、不安を抱き、そしてこれまでの生き方を変えざるを得なくなり、孤立化していくという現象が、「子育て」と多く共通する側面を有していると考えていることによる。また、人生に即してみれば、「子育て」と「介護」は、同じ一人の人生のレールのうえで生じるものであり、別々に考えるのではなく、一人の人生においてつながる出来事として捉える必要があると考えていることもある。

今回のアンケート調査において行った「あなたは将来の介護について、不安を感じていますか」という問いに対して、大学生は「非常に不安を感じる」が29.9%、「不安を感じる」が51.1%(合計81.0%)、子育て世代は「非常に不安を感じる」が19.6%、「不安を感じる」が54.3%(合計73.9%)という回答がなされた。以上のことは、「子育て」のみならず、「介護」についても、子育て世代と大学生は不安を抱いており、若い世代＝「子育て」の支援という単純な図式を考え直す必要があることを示している。

子育て世代の抱く不安の要因は多様であるが、「介護がいつまで続くかわからず、将来の見通しを立てにくい」、「公的介護保険制度の仕組みがわからない」、「仕事を辞めずに仕事と介護を両立するための仕組みがわからない」などが上位を占めている。他方、「家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか」という質問に対し、子育て世代、大学生ともに、「子育てや家庭の介護・看護を支援する公的なサービスの充実」が上位を占めている。公的なサービスの存在がわからない、たとえ公的なサービスがあってもそれが不十分に感じるという意識の一端をみることができ。多様な子育て・介護の実態に即した公的なサービスのあり方の確立はきわめて難しい問題といえるが、限られた資源で効果のあるサービスをさらに探究していくことが求められているといえよう。

さらに、本調査で注目したのは制度やサービスというシステムの背後にある価値観、雰囲気とでもいうべきものである。それは子育て世代のアンケート調査の、「家事・育児・介護などと仕事を両立しながら働くために、何が必要だと思いますか」という質問の「その他」の選択肢で記された以下の記述である。

- ・会社勤めを最優先事項にする(できる)健康な成人をモデルに社会を考える体制の改善
- ・大変なことや助けてほしいことをちゅうちよなく言える社会の雰囲気。両立しようとしなくていいよと言ってくれる人の存在や両立しなければいけないというのは思いこみであることを知らせてくれる人の存在。「健康な成人」をモデルとした社会のあり方、大変なときに助けてと言えない社会の雰囲気をいかに見直していけるのか。

		<p>以上の記述は、これから私たちが目指していくべき社会のあり方を示唆しているといえるだろう。</p> <p>本ニーズ調査事業の岡山市役所における協働先は、女性が輝くまちづくり推進課であった。本ニーズ調査事業の岡山市役所における協働先は、女性が輝くまちづくり推進課であった。当課では、本ニーズ調査事業において、可能なかぎり子育て世代と大学生のリアルな声を集め、今後の施策検討に活かしたいという目的があった。その意味で、本ニーズ調査事業において、ワークライフバランスのあり方を考えるシンポジウムや「家族留学」を活用した授業を通じて、大学生や子育て世代の生の声を聴き、若い世代のリアルな不安や悩み、実態に触れたことは、男女共同参画の施策を進める行政にとっても貴重な経験となった。例えば「家族留学」において、大学生が留学中に子育て世代から聞き取った印象に残った言葉や気付いたことをまとめたメモからは、仕事と子育てを両立しながら、あるいは、“専業主婦”として子育てに向き合いながら、「しんどい」とときには「しんどい」と言える場を大切にする、あるいは、社会とのつながりを模索する子育て世代の姿が伝わってくる。</p> <p>また、子育てに対して漠然とした不安を抱いていた大学生が、家族留学を体験することで子育てのマイナスイメージがプラスに変わるなどの効果とともに、固定的な性別役割分担に対する疑問や家庭生活におけるジェンダーの視点も垣間見ることができる。女性の社会進出や共働きの増加など、社会情勢が大きく変化する中、育児や介護などと仕事との両立を含めたワークライフバランスの実現は、性別にかかわらず、男女が共にあらゆる場で個性や能力を発揮するために、今後一層重要となるテーマの一つである。そういった意味でも、今回の事業を通じて市民協働により様々なアプローチを試みたことは、大学生、子育て世代、大学、介護者の支援に取り組む民間団体、行政など、それぞれの立場において、ワークライフバランスの実現に向け相互に連携した取組みのスタートとなったのではと感じる。</p>
<p>本調査を踏まえて提案したい協働事業の予定</p>	<p>□平成30年度岡山市の一般施策で事業を実施する予定  □平成31年度岡山市一般施策として実施する予定  □平成30年度市民協働推進モデル事業に提案する予定。  □平成31年度市民協働推進モデル事業に提案する予定。  ■その他（協働先と調整の上、今後の展開について検討する。 )</p> <hr/> <p>提案（実施）する予定の事業計画案概要</p> <p>「家族留学」の仕組みを活かした「ケアラー」支援の実践方法の創出と展開</p>	

## 岡山市市民協働推進ニーズ調査事業 収支決算書

単位(円)

調査事業名	子育て世代が抱えるワークライフバランス及び大学生の多様なライフプラン形成に向けた課題・ニーズ調査プロジェクト
-------	--

## (収入)

	費目等	金額
自己資金等	実施主体 会費	3,000 円
	合同提案団体 研究費	136,818 円
	合計(a)	139,818 円
事業収入	事業収入	0 円
	合計(b)	円
岡山市補助金申請額(c)		480,000 円
収入合計(d) = (a)+(b)+(c)		619,818 円

## (支出)

	費目	金額	内訳
経費	旅費(manma)	14,400 円	宿泊費(2017年7月23日・説明会)
	旅費(manma)	38,820 円	交通費(2017年7月23日・説明会)
	旅費(manma)	19,440 円	交通費(2017年7月23日・説明会)
	印刷製本費	47,734 円	チラシデザイン料 20,000 円 チラシ作成料 19,198 円 入稿手数料 5,000 円 消費税 3,536 円
	交通費(manma)	26,720 円	2017年12月11日・シンポジウム
	交通費(manma)	5,820 円	2017年12月11日・シンポジウム
	交通費(manma)	20,900 円	2017年12月11日・シンポジ

	旅費(荻野志保)	56,384 円	ウム 講演謝金を含む
	印刷製本費	135,000 円	調査事業報告書
	印刷製本費	86,400 円	調査事業報告書・概要版
	委託料	149,688 円	アンケート集計業務一式 集計業務 138,600 円 消費税 11,088 円
	謝金	17,000 円	時給 1000 円(テープ起こし)
	振込手数料(4件)	1,512 円	
総事業費		619,818 円	※収入合計(d)と同額

※領収書等の支払の実績を証明するものを添付してください。

※会議費、交通費等の支払の場合はその目的・場所等がわかる資料を添付してください。

※人件費の場合は業務従事日、時間などを添付してください。